



THE JAPANESE SCHOOL in LONDON

ロンドン日本人学校だより 6

学校教育目標

自ら学び、心豊かにたくましく国際
社会を生きぬく児童生徒の育成

合い言葉：自立・貢献

2021(令和3)年

月2日発行 ロンドン日本人学校
令和3年度 第3号

「貢献」の復興

校長 石山 秀樹

(ノック)「どうぞ」「失礼します。ロンドン日本人学校3年〇組〇番〇〇です。宜しくお願いします。」「では初めに、30秒で自己PRをしてください。」…緊張の面持ちで入室してきた“受験生”は、自らの「強み」等を含めた話を始めます。

これは、先週までに行われた「中学部3学年校長面接」の様式です。一対一ですので、一挙手一投足、言葉や反応の一つ一つに個性が表れます。面接のねらいは、主に自身の進路の考え方を磨くことにあり、殆どの生徒はこの時期としてはよく考え、自分の言葉で語る事ができています。ときには、「あなたのPRにあった『リーダーシップ』とはどんなことですか」「『自由な校風に憧れ』と答えましたが、なぜ『自由』であることが大事だと思うのですか」のような突っ込んだ質問をすることがあります。我々でもいきなり聞かれればたじろいでしまうような問いにもきちんと答えようとする姿勢、そして答える内容もまた立派だと感じます。

多くの生徒はこの校長面接でかなりの緊張と、ストレスを感じるでしょう。「ストレス」と書くと悪いことのように響きますが、適度な、短期的なストレスはヒトが人間として生きていく上で必要なものです。面接はどの学校の入試でも行われるということではありませんが、生徒達がこれから先の人生を生きていく上で、必ずそのような“真剣勝負”の場面は訪れます。そのための初歩の練習として、校長面接は良い機会と考えています。

さて今年、そして昨年度の校長面接で私が厳しいと感じているのは、受験生達がどうしても学校での活躍、或いはそれを通じた成長を語る事ができないところがあることです。言うまでも無くそれは、今回のコロナ禍によって学校における教育の場が大きく制限されてきたことによります。昨年度の本校では1学期と3学期の学校一時閉鎖では勿論のこと、授業を実施できた2学期でも厳

しい感染防止措置によって、児童会・生徒会活動や全ての学校行事を中止しなければなりませんでした。本校の児童生徒はこれらの活動に進んで取り組み、かつ楽しむことが常態なのですが、その場が昨年度1年の間失われたのです。

児童会・生徒会活動や学校行事、学級活動は、まとめて「特別活動」と呼ばれ、本校の合い言葉の一つ「貢献」は、主にこれらの活動の中で追究しています。「特別活動」のねらいは、文部科学省の学習指導要領によれば、「望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団や社会の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、人間としての生き方についての自覚を深め、自己を生かす能力を養う」とされています。昨年度、その場が無かったということは、これらの力を高める機会が無かったということの意味します。パンデミックという止むを得ない事態とは言え、その意味するところに教育の一翼を担う者として私は慄然たる思いがします。

授業はオンラインである程度実施できても、子供達同士が自在に関わり、相互に考えを交わり、学び合っていくことは、現在のテクノロジーでは実現できていません。私は、子供達の「学び」には身体とその五感をフルに使った活動と脳の働きとを結びつけることが不可欠だと考えています。現在の画面越しの映像だけでは「学び」には甚だ不十分なのです。

昨年度失われた「特別活動」は、日本の学校教育の、そして本校の最大の特徴の一つであり、強みでもあります。今年度、英国におけるコロナ禍制限の緩和に伴い、児童会・生徒会活動、清掃活動、水泳学習等を実施し、これから運動会や文化祭、宿泊を伴う旅行行事等の“復興”を進めていきます。ロンドン日本人学校では、英国の指針や科学的知見に基づく感染症対応を行いつつ、学校を子供達が存分に活躍できる場にしていきます。